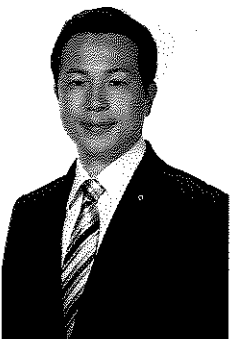


新年を迎えて

参議院議員

宇都 隆史



会員の皆様、明けましておめでとうございます。航空自衛隊出身、「空翔ぶ参議院議員」こと宇都隆史（うとたかし）です。昨年は公私に渡りご指導ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、私事ではございますが、2期目の活動もいよいよ折り返し地点が見えてきました。国会においては、国会対策副委員長、兼ねて外交防衛委員会筆頭理事として、議会活動を精力的にこなしております。本年も倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

さて、このような国際社会の変化の中、来年度の予算についての大枠が決定されました。本年度に引き続き過去最高額となり、安全保障基盤の構築に全力を傾注する安倍政権の姿勢が、来年度予算額にも反映されたものと一定の評価をしています。一方で、新たな防衛大綱に基づく中期防衛力整備計画の初年度としては、いささか中途半端な内容であった感も否めません。新たな

領域の「宇宙・サイバー・電子戦」の強化は理解できますが、まずは25大綱で目指していた「あるべき防衛力」の構築を加速化させることに財源を注力すべきだと考えます。特に陸上自衛隊は26中期防の5年間で、創隊以来の改編事業をまだ半分もやりきっていません。統合機動防衛力の完成を優先しつつ、あらたな領域に拡大していくのが本来あるべき防衛力整備の順序のほうです。また、新たな事業を展開していくことにより、これまで以上に後方予算（特に維持整備費）が削減の対象となり、装備品の稼働率を更に低下させるようなことがあれば、「真に戦える組織」とは正反対の結果を及ぼします。通常国会冒頭に行われる第2次補正予算・本予算審議の過程の中でも、このような懸案事項に関して、政府に対し厳しい指摘を行い、政治的手当てを講じて参りたいと考えています。

末筆ながら、国際社会において日本防衛省・自衛隊が万全の態勢で任務に邁進できるよう、数少ない自衛隊出身の国会議員として、外交・安全保障政策の更なる推進に全身全霊で取り組んで参る所存です。引き続きのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今年1年が我が日本国にとりまして幸多き年となり、国民の皆様が昨年同様安心して暮らせますよう、同時に、会員の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。